

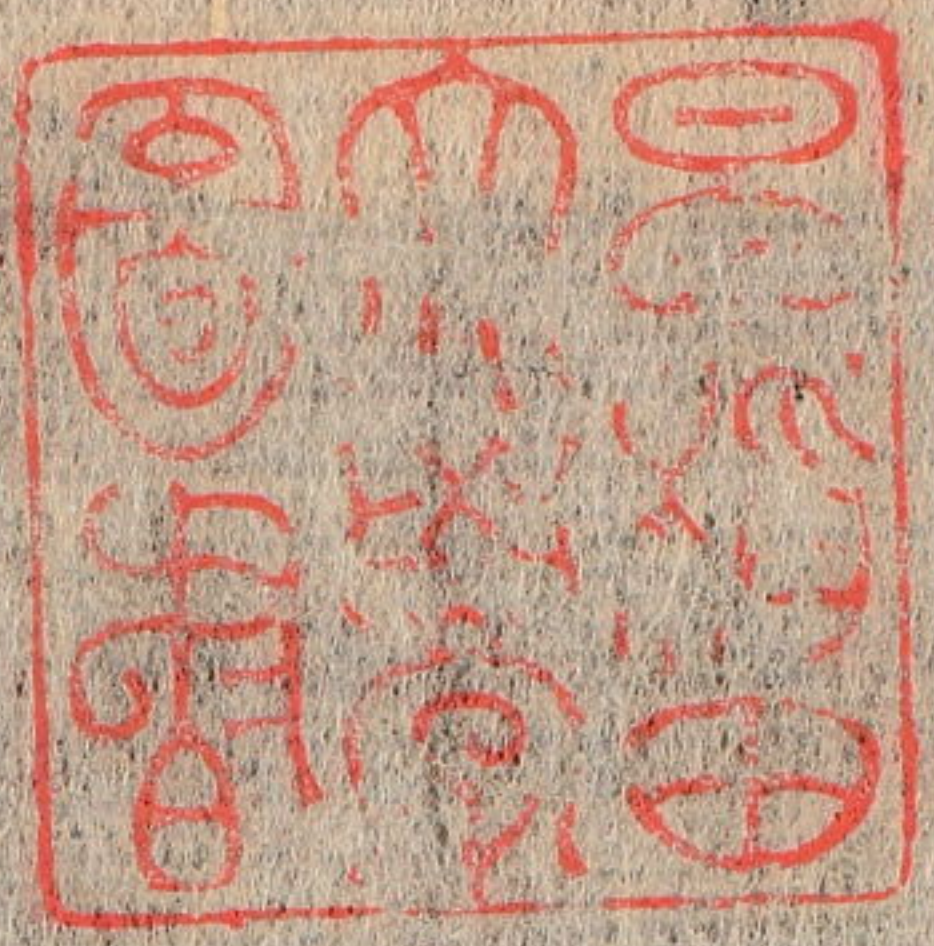
朝夷巡遊記第八編
四



13
704
39



明治
1704
巻 39



鷹野 著
名 著 判 冊 書

新選 作文必用 普通

中本 全二冊

明治 三 年
十月 九 日 購 求

右書ハ頭書作文類語數多ク揚ゲ本文ハ日用文ニテ
皆々短文ニ綴リ小學兒童ノ作文ニ助書ニ且ハ商
家ニ必ラス使用ニ可相成珍書本也江湖諸君購求
アラント知リ玉可シ何方ノ本屋ニモ有外詢求被下候

書 肆

大阪此久寶寺町四丁目十八番地

文榮閣

前川源七郎



朝夷巡島記全傳第八編卷之四

東都

松亭金水編次

續輯第十七

主と素ね化と隠川の上
奸計一とび就る石戸の郷士

かゝてその明の晨東雲の白むと俟て馬飼標吉郎嗣忠の例の駕馬を
秣飼ひ宮弘義と弘秋と俱小をり出へ行者ヲ往方と素ねを促しける
宮小四郎弘義の老の身を狩倉小疲まるとりて起りあはば昨夜笹媛お
咄とつひあへて心と慰む為の既小兩風も止之夜も明々人小冠者ハ何れも
何と云かの林原小あまを程く飯りあへて必せり小奴等もも疲きて熟睡
あまを心あけ起すも便るた不為るまはらぶ要時猶傍せんとさう出ん容の中
まどの子の量次秋弘も父が如きとまら子も然も急心とてあはれと云ん

枕の撞げむと。面谷らるるを嗣忠のこもる。父も日未あ。いと老実るる者なり。と思ひてり。あつて。か。薄情さ。あつたり。案考の成。他人のさ。又。安雨と。その身事は。吾の渠。案考。存。子。を。一騎。被。妙。の。その。女。不。古。と。頓。を。容。小媛。の。こと。告。て。宮。の。門。あ。り。来。せ。り。と。元。末。路。の。案。内。の。知。り。す。昨日。僅。小。當。小。往。り。と。ふ。い。ふ。の。幅。三。丈。を。り。の。溝。川。の。と。隠。川。の。お。後。らん。と。岸。を。さ。り。け。ば。昨夜。の。大。雨。小。水。高。や。増。らん。岸。より。さ。り。く。漲。り。流。ま。せ。ば。舟。由。あ。ら。ま。い。び。渡。る。を。す。り。も。多。く。浅。瀬。の。ま。ま。馬。も。ち。入。る。過。あ。ら。ば。胡。虜。の。行。之。右。や。左。や。と。川。端。と。け。の。戻。り。つ。踟。躇。と。半。响。の。も。あ。り。の。べ。か。る。処。小。童。次。秋。公。馬。と。早。め。と。地。来。り。標。吉。と。い。ふ。冷。笑。ひ。和。主。の。吾。們。と。実。る。人。者。と。思。ひ。こ。を。く。ぬ。け。抜。く。と。一。騎。就。り。と。小。奴。が。知。り。せ。ぬ。ち。も。措。ま。ず。来。て。え。ま。い。は。川。渡。ま。い。ま。い。渡。る。を。あ。ら。の。笑。ぞ。あ。か。く。て。家。の。と。遠。り。く。か。り。し。も。何。の。詮。あ。る。鈍。き。

人。や。朝。と。い。は。標。吉。は。て。胸。の。裡。安。ら。び。怒。り。の。合。め。と。今。争。ふ。へ。と。時。節。に。あ。ら。び。渠。の。按。内。も。さ。く。知。つ。ら。小。ま。づ。従。ひ。て。教。へ。と。重。重。の。私。心。性。方。と。な。ん。と。肝。要。あ。ら。と。い。ふ。微。笑。て。彼。小。對。ひ。努。力。和。意。を。と。実。る。と。い。ふ。あ。ら。あ。ら。と。い。ふ。己。が。為。の。主。君。あり。然。る。と。ま。ま。性。方。と。ま。ま。ず。須。臾。の。安。を。ね。が。東。雲。を。も。む。と。俟。つ。け。出。ん。と。す。る。小。疲。ま。さ。り。と。宣。へ。も。最。ま。り。然。と。い。ふ。小。妹。さ。ま。按。内。の。ま。ね。と。頓。性。て。案。考。の。の。と。ま。ま。が。と。い。ふ。外。の。川。の。漲。る。水。の。烈。さ。に。心。臆。し。と。渡。り。の。や。ま。い。辛。く。早。く。い。く。愿。ひ。の。浅。瀬。と。教。へ。と。懸。念。の。秋。弘。誇。り。の。小。人。と。さ。り。如。く。の。川。の。細。壑。あ。ら。と。大。雨。の。後。の。十。方。の。水。聚。ま。さ。り。深。き。と。日。未。小。倍。し。は。や。船。あり。舟。あり。も。輒。く。と。と。渡。さ。ん。や。と。い。ふ。水。の。自。然。落。る。と。俟。り。他。の。と。い。ふ。あ。ら。び。者。共。必。死。の。准。備。す。と。敷。と。敷。と。頓。想。め。吾。も。且。も。休。息。せ。ん。と。従。者。も。小。命。と。を。慮。と。敷。せ。や。と。馬。より。下。り。ま。い。と。俟。と。さ。る。

景執あきら馬飼まかい標吉郎ひょうきちろうの呆おろ果くわ。つり小水の漲あはり。列つら心こころはくはくりんりんの
 つ。その幅あし僅よ小三丈こさんじょうをう。駕馬かばとうち入いは花はなをあらへて渡わたらんては難た
 くもあはと従者じゆざら若わか小命こいのちト竹木たけぎの桴つらをど瓜組かきとてあは時のるときは波なみ
 つべ。然さもは優ゆうくく緩ゆるくと自然ぜん小水の落おつと俟まちとへ人の心こころも知しるぬ小似お
 たり。五ご口くちを来き一ひと指さりたり。つり流ながまの烈はげしと馬うまうち入いんとさひが淵ふち際ぎ
 もあやぬ早川はやがわ小押流おしながさまところかの沫あはと消きる身みの惜おしまもも若わかも空から
 ありあぶ。誰たれあつてそのことと君きみ小告こつる人ひといあ。君きみ小媛ひめあもつと性しやう万マンつ小女おんな
 一生涯いしやうがの嫌きらひと掛かけあつらん今いまのそを渠みち等ら来きたり。ごん押流おしながさるとお織おり
 人ひとあまふ後易ごいしと思おもひまぢて童次どうじ小對たいひまごりや朝あさりのあはけとと女おんな床とこ
 ちて何なにもさるも。ごん在ある忍しのびね。任ま意い過ありまも。开ひらか天命てんめい小存ぞんの在あ下した入い
 る川がわと涉わたさんとするお和主わしゆ若わか難易なんいと見達みけく万一まんいつ底そこの水屑みづがとるおぶお行ゆ

者しやおそのるて告つて後あとねと因よて秋あき弘ひろうち笑わらひ性しやう急いるも辞ことば小ぞりん
 我われこの地ち小生あひままて安内あんないと精せいをく知しるあ。渡わたらるる川がわあまごりて高たか
 らあて俟まちるも和殿わだん血ち丸まる小早こはややりてりて中流ちゆうりゆう小身こみと果くわさへ益えきとす
 所ところ更さらあ。他の笑わらひとさる。鳥とり狩かりる所ところあるもひと冷ひやとさる
 人ひとわごりてい。當下たうげ標吉ひょうきち願ねがひむ。日本にっぽん武東ぶとう心こころのとき。上かみ流りゆうの海うみ小波なみ
 ありて。踏ふても渉わたるつべ。と直ただひと物ものも。現いま小猛まうく勇ゆうす。心こころはあはれ
 ありん況いはやとさる。流ながは涉わたる難たとてあ。人ひと然しかれど小故せがりて悔くむ
 ま。と教おしへり。故ゆゑ小和主わしゆ若わか難易なんいの天てん小任にんす。何なにもあは
 ところへん。ひもあ。どかの驚馬おど小瀆しやく拍合はつあせ。隠かく川の渦うず巻ま水みづふりち入り
 らふ聚會くわい。雑人ざつじん人ひとの勇ゆうま。この賞あま。心こころ小貼てと観かんる所ところ小標吉せうきち水みづ
 練れん得とくる者ものあ。水みづ中ちゆう入いると舟ふねく靴くつより跣はだかり。尾筒おびつづと左手ひだりて小緊こきんと扱とと

声張あげて勢ひと扶けけきぬ、馬馬といふとも、鼻嵐とくさくさして足掻と十四
五篇むつひの岸に難あり著く、標吉閃りと、諸路を左の方へ馳らし
去、秋弘と始め、雑人們、ことごとく、てゝ、秋弘あり、まゝ、使傳、といひ、聖言、やて
靴あり、左右、て、標吉、の、風、雨、の、為、に、撥、り、徑、と、塞、む、樹、木、と、乘、越、え、此、地、を
ち、然、と、眼、と、死、ぶ、ふ、と、冬、え、の、あ、る、行、者、の、馬、彼、地、の、樹、蔭、に、集、ま、り、て、あり、要、を、こ、と、れ
と、弛、著、さ、る、小、昨、日、列、卒、を、も、つ、し、雑、人、們、三、四、人、目、一、枕、を、倒、し、つ、冠、者、に
新、い、ふ、る、さ、ま、ま、心、悸、き、馬、より、飛、下、り、右、つ、と、ご、ご、此、方、を、舊、く、る、祠、の、裡
こ、と、と、服、を、う、つ、る、小、緑、の、朽、て、薄、刃、草、置、茂、り、し、ま、る、小、枯、て、あり、いつ、も、昨、夜
の、老、温、が、ひ、ひ、と、魔、所、と、い、は、る、あ、る、あ、る、い、か、の、馬、の、傍、に、四、三、つ、ん、る、小、は、ん、だ、
小、何、や、ん、猪、び、著、さ、る、の、あ、り、さ、な、を、把、て、披、さ、ら、う、る、小、性、異、不、出、會
命、を、後、と、是、一、道、人、が、救、ひ、と、得、て、歸、り、余、を、け、と、を、再、び、世、を、出、ん、た、の、あ、り、や

あ、り、や、計、り、が、う、若、此、も、小、帰、り、来、さ、る、我、と、世、を、あ、れ、去、と、り、後、の、事、共、と、計
し、へ、の、必、計、方、と、索、ね、ん、と、な、意、蓋、不、人、と、る、費、し、て、且、つ、ら、爲、す、同、地、に、列
空、の、雜、人、四、個、が、と、息、を、か、ま、さ、る、く、い、は、る、その、旁、と、賞、ま、し、る、倘、ら、の、ま、る、小
息、息、と、い、ふ、徒、類、不、遠、よ、し、葦、り、の、料、且、も、さ、う、と、父、母、妻、を、も、つ、後、の、存、す、と
の、ま、る、と、い、ふ、應、の、の、の、の、の、時、の、耳、を、か、み、任、ま、さ、る、聊、異、存、あ、る、と、義、邦、と
を、花、押、と、居、さ、る、標、吉、と、い、は、る、さ、ら、う、と、早、と、早、と、い、は、る、敢、て、左、右、の、思、案、を
い、は、る、の、雜、人、們、と、い、は、る、さ、ら、う、と、換、生、ら、う、と、い、は、る、節、の、容、を、も、畧、の、分、り、あ、る、こ、と、と
肝、要、と、い、は、る、さ、ら、う、と、傍、に、渾、身、と、探、ら、う、と、い、は、る、胸、の、あ、り、小、竹、の、温、さ、り、あ、る、中、に
あ、ま、い、全、く、痺、の、切、ら、る、あ、り、と、い、は、る、准、備、を、な、さ、る、茶、と、さ、ら、う、と、い、は、る、は、合、ま、せ、涼、を、
撫、ひ、と、沃、き、入、ら、う、と、い、は、る、目、く、あ、る、と、眼、と、閉、く、標、吉、嬉、し、く、さ、ら、う、と、い、は、る、あ、げ、と、い、は、る、心、を、さ、さ、り、
我、ハ、吉、見、刀、杯、の、中、に、あ、る、馬、飼、嗣、忠、と、召、さ、る、の、も、と、い、は、る、声、を、な、を、宛、あ、れ、が、

新撰八編卷之四

標吉ハ傍小近づき。斧よりして胸のあたり。掻摩り効りなると。漸と人心地
 著する。容子かくて残り三個の者も。獲生らんと。憑く。茶と合ませ。水
 と沃ぐ。容子息出ぬ。標吉大不安堵す。儲你等不向ふことあり。
 刀拵小屠副。さまた来て。びらるる。あて。乳絶をり。さ。ま。吉見刀拵の
 むん性方。か。び。頼。り。と。向。ま。て。件。の。雜。人。們。始。り。小。狗。が。隠。川。を。流
 まつ。こ。う。ん。捨。ん。の。不。便。あり。そ。の。後。と。遠。の。ひ。う。と。の。路。徑。屈。曲。あ。せ。

川端。稍。不。遠。く。あ。ふ。り。形。て。先。途。も。見。達。け。が。了。宮。姓。を。他。の。人。も
 俟。く。あ。え。ん。不。頼。還。ら。れ。宜。ふ。お。ろ。う。雨。風。烈。あ。く。面。と。向。へ。さ。様。た。け。さ。は。

且。く。さ。加。不。甜。せ。う。ち。日。の。暮。て。善。惡。の。こ。と。を。刀。拵。の。彼。処。の。神。不。俵
 王。兩。風。と。凄。ん。と。作。す。ま。さ。吾。們。の。同。志。く。性。を。潜。まり。と。る。と。並。頼。係
 雨。と。風。と。出。ん。空。も。あ。く。心。も。す。も。時。刻。の。移。り。た。初。夜。さ。の。と。る。と。首

様。の。虫。益。者。等。の。社。壇。小。居。並。び。う。刀。拵。ハ。不。得。不。狐。狸。の。不。為。る。ん
 と。て。必。さ。あ。ん。の。色。の。あ。せ。と。吾。們。の。渾。身。戰。栗。生。る。心。地。ら。ぬ
 折。り。昼。より。明。き。電。小。差。や。と。孩。く。その。折。か。の。盡。者。等。火。焰。と。吐。き。噴。り
 か。り。を。食。へ。ん。と。す。そ。と。と。る。と。う。眩。暈。倒。れ。ま。う。と。あ。て。の。後。の。の。小。あ。ん
 更。小。あ。ん。刀。拵。の。何。方。へ。越。あ。ん。と。彼。魔。然。小。命。と。拵。ら。ま。さ。ひ。の。め
 あ。れ。と。の。一。什。と。悟。る。と。恐。懼。小。堪。た。る。と。震。り。標。吉。く。ま。さ。一。し。を。

標。吉。郎。の。篤。と。支。果。儲。の。怪。し。き。物。語。我。陸。奥。小。在。一。頃。救。生。と。好。む。の
 餘。の。深。山。幽。谷。と。池。廻。り。樵。夫。も。通。り。ぬ。難。所。小。入。り。そ。か。ら。く。辛。く。さ。る。と。

あ。ま。と。然。る。妖。怪。あ。ん。出。余。ん。と。怒。る。と。狼。の。と。況。や。此。処。等。の。山。深。く。と。変化
 の。居。る。と。地。小。あ。ん。と。是。れ。の。究。め。を。仔。細。と。あ。ん。然。と。も。你。達。の。身。地。あ。ん
 その。後。と。知。る。と。あ。ん。と。途。方。も。も。恨。不。結。び。遺。書。あ。ん。か。ら。く。ず。性。方。と

新撰八編卷之四



南夷八編卷之四

素のる。具ふ徳めり。臣子。者。注親の。後。方。を。め。と。その。ま。ふ。
閣。の。あ。る。と。や。備。の。涉。ふ。世。と。遁。ま。を。隠。ま。柵。道。人。の。あ。り。と。聞。
さ。う。と。同。じ。も。衆。知。む。と。答。ふ。と。不。於。て。馬。飼。の。詮。方。を。行。者。に。送。世。
馬。と。渠。も。不。牽。せ。り。元。来。一。方。へ。帰。る。の。内。い。山。川。の。落。り。も。速。水。
嵩。の。威。し。り。と。董。次。秋。弘。彼。処。と。渡。り。と。未。了。標。吉。郎。不。行。達。て。あ。
顛。末。と。向。り。と。標。吉。郎。の。心。裡。不。渠。と。太。く。凍。め。と。い。と。果。ば。と。あ。な。
詞。類。不。雜。人。們。が。さ。う。と。告。知。し。ま。る。左。右。不。宮。姓。と。商。儀。を。計。ら。
下。馬。と。早。め。と。ま。る。帰。る。雀。媛。の。背。より。て。俟。焦。ま。る。良。人。の。身。の。上。本。日。も。
と。也。明。時。今。不。於。て。標。吉。が。音。信。あ。ま。の。刀。柄。の。也。不。過。ま。り。と。疑。ひ。は。備。
然。ら。ん。あ。の。後。誰。と。便。不。世。と。送。ら。ん。産。ま。て。い。ま。七。夜。え。り。く。後。さ。る。
嬰。兒。の。父。の。愁。え。と。い。と。成。長。を。便。不。あ。り。如何。ま。る。不。禍。の。神。の。崇。

う。前世の罪を報いり。あ。わ。わ。ど。も。重。ね。の。辱。苦。勞。が。ら。ん。猶。う。這。回。の。狩。が。
立。の。の。と。不。不。深。む。る。忌。お。り。ひ。脱。不。初。不。止。め。と。止。り。と。武。夫。の。意。地。と。さ。
あ。心。不。あ。ぬ。殺。生。の。人。報。い。と。も。つ。を。え。不。圓。通。太。士。の。は。谷。毘。沙。
門。天。の。罰。あ。る。ん。が。る。夏。月。と。う。ん。より。彼。陸。奥。の。賊。寨。を。と。命。と。捐。を。
増。り。と。過。去。未。来。種。と。思。ひ。廻。せ。ば。端。り。胸。の。痛。む。地。を。物。さ。も。
給。め。ら。の。の。の。と。老。實。不。媛。が。傍。と。離。れ。と。や。ぬ。芥。木。の。木。と。桑。の。の。浮。
世。話。説。不。辞。と。せ。と。あ。と。と。女。不。不。生。と。不。不。果。敢。る。れ。の。あ。る。と。と。と。常。
言。不。の。ひ。ひ。と。と。と。ひ。と。返。せ。ば。然。不。あ。り。と。女。子。の。五。障。三。後。の。滅。め。あ。り。と。あ。
い。ひ。ま。る。と。愛。さ。れ。の。ま。と。女。子。あり。如何。ふ。と。の。不。國。治。ま。る。と。寧。ろ。太。平。の。世。不。あ。り。
男。不。倍。と。飲。樂。あり。元。より。深。き。窟。不。潜。と。貴。さ。り。の。行。と。不。輕。羅。不。履。は。れ。
裾。と。袋。ね。珍。膳。美。味。不。飽。満。て。成。ひ。の。好。る。絲。竹。や。香。排。香。茶。に。日。ひ。

送り。子の産らうとも手自育てて縫針さへも人任せ。此の榮耀も
 明く暮まると上品の人の入り。中品下品の此の入り。夫の榮耀も
 あり。常と媛もつゝめく。扱擔けて今日の日と負多く送る人まらぬ。或
 ひ遊山神佛へ詣つるとその女夫連良人のあつと織布の垢染とみ
 着す。渾家の却て仁田山細紅梅織の幅廣帯。美麗と傍うら女子
 の徳さへ往昔の流し女子と産との榮耀も男力の候も封せまは
 女へ天子の祀とあると唐の世も人言り。先頃良人の喇らぬ
 聞評争記の世ごとと女子の身の軍のて不共さず。任意怨敵を
 脱その家滅ぶるも。輒く女子も又を加へて還て故も愛らさるる
 散葉榮耀も忘るる例もまらぬ。初まらば実るは去と思す。わ
 ねども。適得がま生と稟僅の義理もかまらぬ。身と流るるす。

愚の極と吾依り。假令二世と契り。良人ごとと世もあつと
 らひ。命終まらば互も黄壤一堆の土とあるとこの迹も。先達死
 人の為。その此尋て死し。悉は白何の益ある。世も貞女も即帰ら
 一旦称せらるる。称するも法共。終の煙りと道も。名と遺す。ま
 時の不ら。同。妻の不ら。生て散葉榮耀と尽し。定業と俟不
 若び。詞と巧と。兼。白。介木。心中。後。良人の弘義。北
 條。称。ひ。吉見。行者。亡。ひ。その子の董次。秋弘。石戸の莊。願
 さつ。雀。媛。秋弘。渾家。不。做。え。と。益。め。る。暗。心。と。動。く。暗。心。
 深き巧も。神も。ぬ。の。知。ら。ぬ。と。あ。る。小。行。者。が。身。の。人。不。還。ま。り。せ。れ
 知。ま。ら。ぬ。身。不。告。あ。る。哀。れ。不。慮。の。と。り。や。あ。る。と。ま。ら。推。隱。夫。と。ま。ら
 諭す。の。ろ。と。あ。る。と。の。つ。つ。响。え。裏。ま。ら。ぬ。安。否。判。那。由。迷。く。ま。ら。ぬ。

終るるも言まや。邪言まが貴人の非と論るる不他事也。妖魔鬼神不慮命を命
 終るる夫とて道人不まも異人小まも危急と救むと云ふる。假令の
 ありありと。帰りありぬ所習のあり。然るに僅三羽餘りの自筆を送る
 跡のてよく計らうとてそそのこ。雜人們が存亡の仁愛ありて安んずと成地と
 妻子のふ及む。媛の女性のいふ之馬飼刀狩の思ふ在下熟考ふ
 ば。このいふ夫婦の間不設と委せざる。奈何とて不媛の再の義経
 朝臣の嫌とて信夫の莊司が赤心りて。要合しるのこころ。義経の陸
 奥の難辛苦のいふ更む。操正しき方あること。討者之心不ゆる。厥
 ひるる所あり。今いふ今いふと。條ありとて。明地不縁し。断り義経は
 さいと生涯配逐るの思ひありぬ。釋あり。這回の危難と。傍侍不領地と
 捐恩愛の切らま。孩見え顧むせむ方。ち退ひりぬ。這の

媛の再の心不。合とありや否の知れぬ。後才ある年月と多く。後不る老が
 眼の堅定一分も違ふ。槌りて大地いうち外すとも。あつた外は。と
 いと。下ふ言。當下芥木も。膝と進めて。小四郎刀狩。ことと。あ
 り。いふ。男女の縁不。果敢ある。あつた。喻り。翠帳紅圍不。枕多
 ぞ。私語比翼連理の契り。と文。君忘るる。忘る。と。抗言ひ。中小の勿心。地。あ
 の浮世の。いふ。珠ら。古への人の編り。物語世の。歌集の。あつた。契り
 中のか。いふ。いと恨。世と。叩つ。神不。佛不。預。とも。空を。秋。さの。杜。なる。
 あつた。媛も。縁。より。知。召。す。所。あつた。何。と。今。さ。う。輸。す。その。は。秋。さ。の。あ
 ころ。心。あつた。りの。せ。人。と。あつた。何。の。鈴。あつた。ん。と。世。へ。の。釋。見。と。大。ふ。り。て。後
 り。ま。の。安。堵。と。量。る。他。の。思。案。は。何。も。不。馬。飼。刀。狩。吉。刀。狩。和。王。も
 俱。不。媛。君。と。凍。め。励。ま。し。後。の。と。針。ひ。の。専。一。る。ん。女。の。あつた。と。あつた。

とみありと鎌倉刀称ふらう。明と地とす。あつる。い沙汰せん。わがれ。折用場。いさ。折地。は。口ありて。没収せし。ま。媛。は。青。始り。の。若子。も。流浪。の。は。あり。後。の。艱苦。の。あり。ま。行。者。刀。称。と。重。き。疾。病。と。披。露。ま。そ。の。若子。不。相。續。の。と。願。ひ。の。り。行。あ。く。ん。の。必。定。ま。そ。の。莊。園。不。瑕。つ。こ。の。夫。等。の。こ。の。良。人。の。小。四。郎。弘。義。後。と。す。執。権。の。は。館。本。侯。の。ま。る。は。自。負。と。蒙。り。け。ま。内。外。の。人。不。よ。く。憑。き。計。る。ま。ゆ。の。仔。細。の。ま。其。言。所。理。の。ま。ま。佳。媛。も。標。吉。の。途。方。不。暗。ら。と。り。み。て。ま。よ。ん。ま。不。憑。む。の。と。他。の。議。論。の。ま。り。なり。

續輯第十八

黄金不濁と優婆塞が浅智
急小迫は佳人の頼ひ

宮小四郎弘義の縁と深くも憑心とす。修験が法術ありのま。ま。あ。り。は。と。

いと義邦の性方。の。知。れ。は。身。を。退。て。ま。多。願。望。半。の。懐。ひ。ぬ。猶。と。ま。る。系。鴉。の。首。尾。全。く。整。ん。と。次。の。日。早。天。不。も。ち。出。て。千。寿。と。草。加。の。間。の。竹。塚。と。の。所。赴。き。修。道。院。と。訪。り。不。折。節。酷。残。の。菴。小。居。り。を。ま。ま。と。す。る。ま。上。坐。不。請。り。ま。の。寒。暖。の。礼。畢。り。先。頃。憑。こ。の。ひ。つ。吉。見。調。伏。の。ま。所。不。負。を。日。夜。丹。精。と。疑。熊。羆。の。魔。神。と。遣。て。そ。の。魂。と。抜。ん。と。せ。し。ま。ま。妨。る。神。あり。て。果。さ。る。ま。報。命。と。り。始。め。り。言。え。と。く。え。と。と。良。家。貴。族。の。裔。あ。て。い。ま。皇。統。の。竹。胤。を。ね。ね。輒。と。と。と。圖。り。く。も。然。と。ま。の。お。ま。た。か。法。術。弛。む。所。あり。ま。は。終。の。君。が。望。と。果。さん。心。強。く。思。ひ。あ。く。い。と。ま。と。弘。義。が。笑。と。合。の。の。の。の。の。脱。小。和。僧。が。法。力。り。て。風。雨。と。起。一。渠。と。ま。脱。小。死。地。小。就。ま。る。と。命。殺。の。尺。さ。る。所。の。ま。場。の。途。の。道。は。は。笑。り。の。ま。箇。様。と。の。遺。書。の。ま。性。方。を。ま。ま。誦。の。渾。家。及。孩。児。の。ま。これ。

謀ふいと易う。然るも吉見が從臣なる。江三三と又奴の悔りか九校者なり。
當時妻子の筈ひくく越の國へ赴き歸り少く程あるべし。その間小僧を
董次が渾家とす。渠が帰るも。あつて後易うと思ふ。媛
の款さし迫りていも夫のゆゑ及せず。ゆゑ和僧が法力を是より教ふ
救ふ。そのあつて教へてよ。その心懐か探り紙小果を御りのいふを
と。黄白の重なる多寡も推量り。酷残の額を按て重ねくのこの御りの特
言所あるも。却て君が心の厚さをとる。お似るも多受納いして丹心と抽つら
已に職分辱しと推頂を。手匣の裡に収めり。その賢息と媛が。いふ易か
似るも。男女の情態推して自由が。言所あり。況やその頃款とす。小
沉して肺肝さす。困塞ぬ。百千万言口説とも。その耳ふ。今平法と
挑まへ。返あ。奇特とて。あす若。も。且。俟。人。休。法。か。る。その

間小調理。果し酒殺酷残が渾家持出で。珍しくと物ゆね。遠路お
芳まのひらへ。あつて涉りの不自由。魚川鯉鮎小鮎生憎との頃。千壽川
濁りて鯉の。と。ぬ。の。白。車。あ。る。生。苴。の。饅。茹。皮。剥。鯉。の。吸。物。味。は。は。
い。人。あり。殊。お。吾。儕。が。在。下。山。陰。あ。る。ぬ。小。舟。の。豆。腐。肉。の。細。く。切。得。ぬ。を。拵。
料理の詰柄苦。千の郎酒二献酌も。と。並。を。す。小。四。郎。の。心。事。も。
心配いふ。腹の加減。志と愛。い。ん。と。盡。把。て。願。く。渾。家。の。後。追。從。の。例。
ふ。花。と。む。さ。せ。酌。つ。酬。つ。す。ふ。か。と。修。道。院。酷。残。の。間。小。入。り。て。あ。つ。て。
平形金珠を押し揉。振鈴の音いと凄く。片時ゆり念。畢。り。頓。て。衣服。と
更めて。この所へ。来。り。刀。称。快。く。願。け。る。ふ。さ。と。の。秘。符。の。男。女。愛。敬。の。一。
守護。の。賢。息。の。肌。小。著。け。今。一。符。の。婦。人。の。國。の。天。井。小。貼。の。人。然。る。ゆ。の。自。然。和
合の。檢。頭。り。ん。と。白。木。の。折。敷。小。裁。て。出。ひ。小。四。郎。把。て。お。戴。と。這。い。守。は。その

伊藤ハ編卷之四

筐媛の方おれと違ひ一平と上人が子育の神ありて其へかひのわく小
 国お貼る三つへへ。乞く吾依が貼んと。肺撮らうあせ天井へ緊く貼て是
 ちう後へ。孩児の成長のその餘り敷く枝葉の頃妾まじつ。世の浮加
 し入心の常あるるるの物語へ假初多う仇まあず。からんるのあへん
 後おまお知つはるひま。その木の根も乾くぬ。お小冠者刀柄が心愛り
 知らるのあへん。まま浮世の慣ひある。その時の宜しきお純とまひれ
 勢を忘れあへる。晴お論と出てゆく。筐媛の産を安らま。ま日柄も
 経たせおあつ。身おて冊さる。乳母女房傳副あり。係子おあへん程
 木の他お婢女の二個の要おも。全輪一さおち出て。輝児のこへん
 手自りのあへん。今日の日和も暖う。湯と浴多る。芥戸おある。干葉と前
 ねらう。と芥木おある。筐媛の物と扱お様。まて様ふら。まをまけ。と

室おいら。腰湯と浴と。まて心地清ま。まらりと無びて。夕酌ま。とは味
 不ら。日へ暮果て。初。近。芥木。今宵。急。針線。あり。と
 来。標吉郎の鎌倉へ。お。子舎。孩児。媛。と。婢女。の
 茶の間お居り。居睡り。持。せん言。故。あ。の。あ。わ。ね。熟。睡。り。と。揮
 児と。膝。お。措。え。お。係。お。あり。る。袋。お。懸。こ。例。お。寐。さ。と。孤。燈。お。對。ひ
 動。お。す。ま。往。末。の。と。案。と。胸。逼。り。一。人。涙。と。催。ま。り。る。回。の。隔。紙。と。ま
 因。て。徐。々。入。来。る。董。次。秋。弘。右。手。の。鉞。子。左。手。の。散。一。種。二。種。を。折。敷
 小。裁。て。と。持。亮。示。し。て。筐。媛。を。向。ひ。お。坐。し。て。標。吉。の。鎌。倉。へ。遣。り。ひ。つ。生。憎
 母。も。急。ぎ。の。と。あり。誰。訪。ふ。人。も。あ。ら。宿。お。ま。ま。と。淋。ま。く。在。す。め。と。庵。溜。お。在。ま
 酒。散。て。世。を。持。お。り。持。お。り。ね。お。い。と。あ。ん。の。常。と。う。味。の。ぬ。そ。の。よ。お。い。ま
 産。後。の。日。教。も。違。わ。げ。な。り。と。と。果。子。と。茶。お。て。心。も。ほ。ぼ。ず。散。ら。ま。

誠不他王の男と存まうその甲斐不かる處女と諸俱ふ明一暮さば世間不絶
 望とあはざるやと思ふも他妻のいふももまに詮方ある人ごとくね心はほ
 乾かぬ袖の露思ひ小憔悴もあま小病細る此の切なき誰小信らざる
 めく繁さともめ玉緒の早くこゝろ多し世不ある程の恨めく秋さ
 ぬ不計めか成ぬいこと思ふも人の物心さゆ未ぬるとま愛ふ人の
 歎きと此の悦びある鳥許多所為らも答あらずね心愛りて捨小
 する人と慕ふの曾一とそまに拾ふ赤心小懸てりま誠ある慕ふ人と
 修心親小初る重次が秋蓬媛へままあててはさへ耳の汚りく腹ま
 思へどもままより後へ何小著向ひ高次ゆまも此ありと一言小辱るを
 還つて後の妨とありやせんと思ふも奴まに笑ひ小紛らて酒過す推
 戲まると宣ふよふも好者小捨らまてよるはる此の沖の船風の隨
 流まある浮うもあありまらいま定ふ此の暇縁と断といふ
 小もあまを升と逸早く異人小此と仕らるも後小元の夫の歸りま何と
 言状怖あまんと思ひ懇小いそと和殿が赤心推しまも速に應と
 いそはは夫婦の義理の後のう良人より此の暇小給さへ然まて小宣ふ
 和殿の心を争慰めざるまもまら天まの互の胸小収めく正まくるま若
 秋の金細さるち和らけりまらまら董次の媛顔ち瞻望と然且小
 今ま返は細もあこれと再びま世小出ぬとあるその遠まめま妻との縁
 こと限りのいそまもあまらまらまら左右小以暖之三年三月俟とて別小
 離縁の証文来るまらまらまらまらか宣ふの情を楊貴妃様の嬌嬌る
 と深山松のむつけき似合ぬまら一筋小まらめあま怒りま眉あまら雄子
 の端まら初らひぬく美しとまらまら生涯世間の胡虜死ぬまら雪むら淋あまら

流まある浮うもあありまらいま定ふ此の暇縁と断といふ
 小もあまを升と逸早く異人小此と仕らるも後小元の夫の歸りま何と
 言状怖あまんと思ひ懇小いそと和殿が赤心推しまも速に應と
 いそはは夫婦の義理の後のう良人より此の暇小給さへ然まて小宣ふ
 和殿の心を争慰めざるまもまら天まの互の胸小収めく正まくるま若
 秋の金細さるち和らけりまらまら董次の媛顔ち瞻望と然且小
 今ま返は細もあこれと再びま世小出ぬとあるその遠まめま妻との縁
 こと限りのいそまもあまらまらまら左右小以暖之三年三月俟とて別小
 離縁の証文来るまらまらまらまらか宣ふの情を楊貴妃様の嬌嬌る
 と深山松のむつけき似合ぬまら一筋小まらめあま怒りま眉あまら雄子
 の端まら初らひぬく美しとまらまら生涯世間の胡虜死ぬまら雪むら淋あまら

世間の左もあま右もあまとい結る情教の懐ひごとく百年の命とて人も
 宿めんと思ひ發つるうら心いよく緩ひ多ればいん此と殺して在下も冥土の
 鬼とあまえんまで覚悟あまやとひるあまは信不在る佩刀拵把り面相變て程
 口とうち甘けしるその昇勢媛のう湯小該なる色とあまをとりて障へ聊示
 めさる秋弘ぬ女子と侮り威しの刃とあまをわら者あはあわねと不承ある
 所とあまをせお思ふ和敷が心と汲だあま憎いとあまを三良人の暇い得ず
 あま心不旋ふべりともあま産後の肥まもあまを戲注するところあまを
 暫く日柄と俵あまを賺し宵むる匡媛とあまを悟りて秋弘が道と日後は
 耳りて産後七夜の間あまを再び妊娠婦女子あまあり実情あまをばあま
 のうと辞論んや今宵の十代の始めとて自身齋を浴敷三三九献の疾は
 うらうち解あまを媛あまをと緊と把る匡媛振放んとあまを暴る心腹膨

と夢も現うらうらとも辨へぬ可あまあり吾う聴を下紐の関の瑣もあま
 るん不あまを侍あまを臥させ一翠麻呂孩鬼の名あり魔いあまをうや声揚ていとも頻りあ
 泣くあまを媛の夢の覚るごとく孩と周章抱とあまを乳と含ませる程あま
 劬いあまを猶啼止びとあまの世あまを驚風の虫の野為う便あまをとう居つ
 るあまをち噪く胸とあまを共あまを車とあまを詮方とあまをうけり茶の間あまを
 婢女の不圖その声の耳あまを入り目とあまを若子の啼後常あまをいあまを
 殺さる来まを董次あまをの怒あまを今あまを未まをりあまを歡待を折うらあまを
 木もあまを来てあまを貯持る熊膽あまを程よく解て含まあまをその某効と達
 けん次あまを弟あまを胸の関あまを容子あまを人あまを安堵あまをあせと暴のともあまをんあまを今
 宵あまをあまを婢女あまをと卧を積あまをあまをけまを董次あまを今あまを詮方あまを室の山あまを
 入あまをあまを飯る心地あまをすあまを姑あまをのあまをあまをあまをつあまを風あまを柳の忽地あまを靡あまを

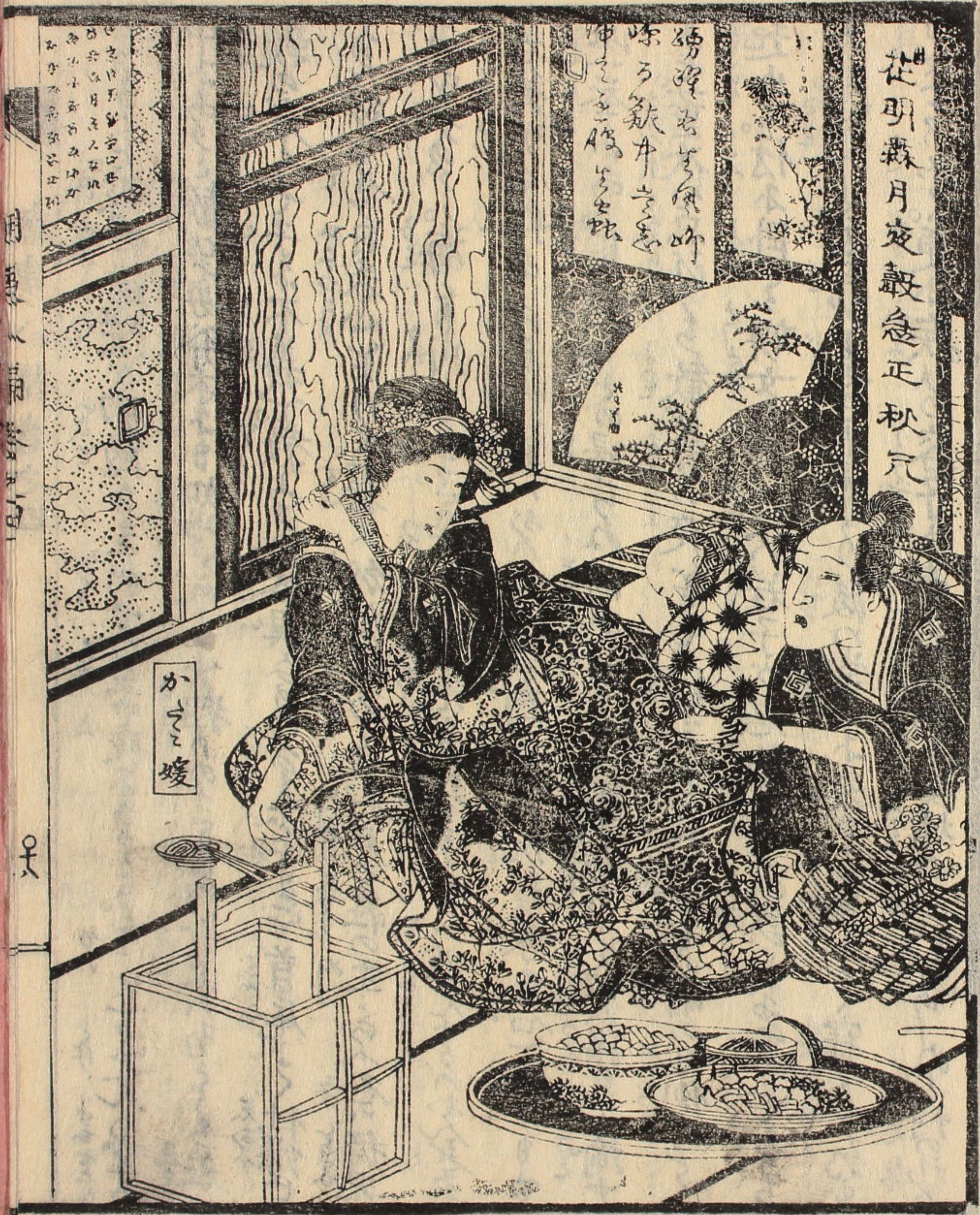
酒散を
齋とて秋弘筥
媛挑む



秋ひろ

花明露月夜穀急正秋元

湧輝若生風所
吹る歎井之志
伸之る一胸生也



かき媛

ことごと彼修道院が功勳あると仰て翌の夜あるとも。本えと遂人の掌の
 中よありと歡びて母斧木よも如此とのよと粗りのうささば斧木のわさうち斧
 親の身とて子よ不義と教うる畧異みのあまごをまて首尾よく仕裸せ
 る。あんが日來心とみりて暮ふがひの夫のこ。石戸の莊の主の人名の揮見
 小ありあが。海とも川ともまご著ぬ水の泡も場子のこ後んすうのあんを
 若揮見小緯あが。の莊園のあんが東西久く沈む家の名と興すもま
 此一挙あり。馬飼をの帰らぬ前小討らばいまも妨あらんえ得の全諭す
 あも董次の点取うち歡び翌の夜とを待小は且筈媛のその明の日例のどく
 起かて侍小臥さ婢女小昨夜の若子が思ひのうめ忠告あてをせむさ
 まで。噪がらるるの毒のあまより後の常さふまうとくよく寐て今朝
 人よらぬ。更小疾ひの容子もあわね。漸く安堵のあひとめぬ。詞のれが

婢女も。俱小安堵のあひと。庵福の方へ死てあかて朝餉も果し。つ
 緯小紛まて日中も過ご。媛の執かり人。後々董次が折ふふれ心
 ありらるる奉動の此方もまて推さうと今もあまは館の修理整をま
 の夜寓居。とて替替とあつても。う程小余釈て心も浪のさぬ。あまと
 善きと縁柄をよま風うち靡く。風情のまて返さまて不憶と出来てい
 敏へ徒らや徒らぬや。任え移りて侍とて。董次父子が手い放まば。かくての上
 その責も。いよ列あくるありぬ。就小昨夜らちつけ小挑まう。身の悔まら
 襟さ。この揮見がふあれあ。一言小辱をめて再びおといせぬ。あま
 術さ。も知りあが。腹さ。くの後との障りさ。あま。人揮見の為あ。くとも
 あも。詞小和め。種と。一寸道との口。後。のさ。力小任。戯。注。と。その奉動。
 心憎くも。腹さ。く。漸除んとせ。そのあ。さ。疾。て。心。も。彷彿。と。五。口。小。あ。ま。その

人の自由あるをんをせしむ。暴小流の翠麻呂を心許し、吾も
 飯まる心地をのたまふ。その見の介抱小婢女を侍未ぬき責免れ
 りぬ。今宵も必挑まらん。一夜二夜はつ小も賺し。道なきこと
 者ヶ在さるち歎く。當下芥木ヶ世の谷の常あたるのと流し白言巧
 り。今夕も今夕も子の為小まづ吾心と初らん。底なきありて
 つ小も良人小捨らまて。よるもあまの浮雲の風の隨えり。何
 山小住とも。自心あつちのふらふ。此の天下小名をまら。義
 の嫌あり。擗けまて。翠麻呂の範頼朝臣の孫あり。清和源氏の庶流
 あり。ちちちち。邊鄙の郷士の渾家よみ。呼ば生涯樂に暮ら
 ぬ。恥辱あり。然りとて今夕鳥の羽刷鍛まて羽立たぬ。あま
 と見ぐ。小通る大駭あり。行者ヶ性方を隠さま。心程の志も濁

世の任下とて。莊園も捨妻子の捨世とて。小捨り。倘然らん
 夫婦の中。何れ隔てんと。筒様とて宜ひて。妻子が後の妨と
 高議の。人まら。あつて。克と誅とある。秋あまびと七
 甚初も計り。常小慈を。心あて。天磨れ不
 為。禍の神の祟あり。あまの此生涯の苦樂と俱と契り。良
 人小捨らま。阿容とて。存命とて。あまの。孩児の初る。因
 縁とて。あまの。腹小宿り。小の不幸。俱小眞土へ伴ふ。情あり。不
 便とて。あまの。様あり。彼賊寨にて殺す。あまの。恨
 人小捨ら。暗小突戻し。始める。あまの。終る。あまの。往向心の
 怒。あまの。場。あまの。遁。あまの。産。あまの。今日と一期と。あまの。定
 まる。あまの。生中。あまの。遺す。あまの。乳房。あまの。孩児と誰憐と人

